

## 論文の内容の要旨

論文提出者氏名	櫻井伸一
論文審査担当者	主査 野見山哲生 教授 副査 本田孝行 教授 ・ 駒津光久 教授
論文題目	<b>A longitudinal study on the relationship between dental health and metabolic syndrome in Japan</b> (日本での口腔衛生とメタボリックシンドロームの関連性についての縦断研究)
(論文の内容の要旨)	<p>〔背景と目的〕 メタボリックシンドロームと歯周炎の密接な関係はすでに報告されている。しかしながらわずかな縦断研究が存在するだけで、それらの関連性は完全には解明できていない。本研究の目的は縦断的研究を用いて歯科疾患の変化とメタボリックシンドロームとの関連性を調査検討することである。</p> <p>〔方法〕 2014年に塩尻市国保特定健診を受けた2,716人中985人、2016年には2,456人のうち754人に成人歯科健診を行った。これらのうち、390人が2014年と2016年の両方で特定健診と歯科検診を受けており、この390人について詳しく検討を行った。</p> <p>〔結果〕 2014年から2016年にかけて、メタボリックシンドローム構成要素である高血圧、脂質代謝異常、高血糖の陽性者数は62人(15.9%)で減少し、104人(26.7%)で増加していた。多変量解析を用いて陽性の増減に寄与する影響因子を分析すると、性(オッズ比(OR):0.55, 95%信頼区間(CI):0.37-0.82, P&lt;0.05)、飲酒行動(OR:2.06, 95%CI:1.14-3.73, P&lt;0.05)、血糖治療薬(OR:6.45, 95%CI:1.45-27.9 P&lt;0.01)、歯周病(OR:1.75, 95%CI:1.14-2.70, P&lt;0.01)はメタボリックシンドロームにとって有意に影響する因子であった。歯周炎の改善は高血圧(OR:2.14, 95%CI:1.03-4.43, P&lt;0.05)や高血糖(OR:2.52, 95%CI:1.27-4.98, P&lt;0.01)に影響を与えたが、脂質代謝異常、肥満には影響しなかった。</p> <p>〔結論〕 本研究の結果より、陽性のメタボリックシンドローム構成要素の保有率は歯周炎に罹患していないか、改善した人よりも持続的、進行性の歯周炎をもつ人の方が高かったことから、歯周炎を減らすことがメタボリックシンドローム予備軍やメタボリックシンドロームを防ぐために重要である可能性が示唆された。</p>